

**アドイン N 対 N 照合 TypeA プログラム  
for アシストパック Pro BHT-1500  
取扱説明書 第 1 版**



2016年 10月 1日  
コンピュータ・アシスト株式会社

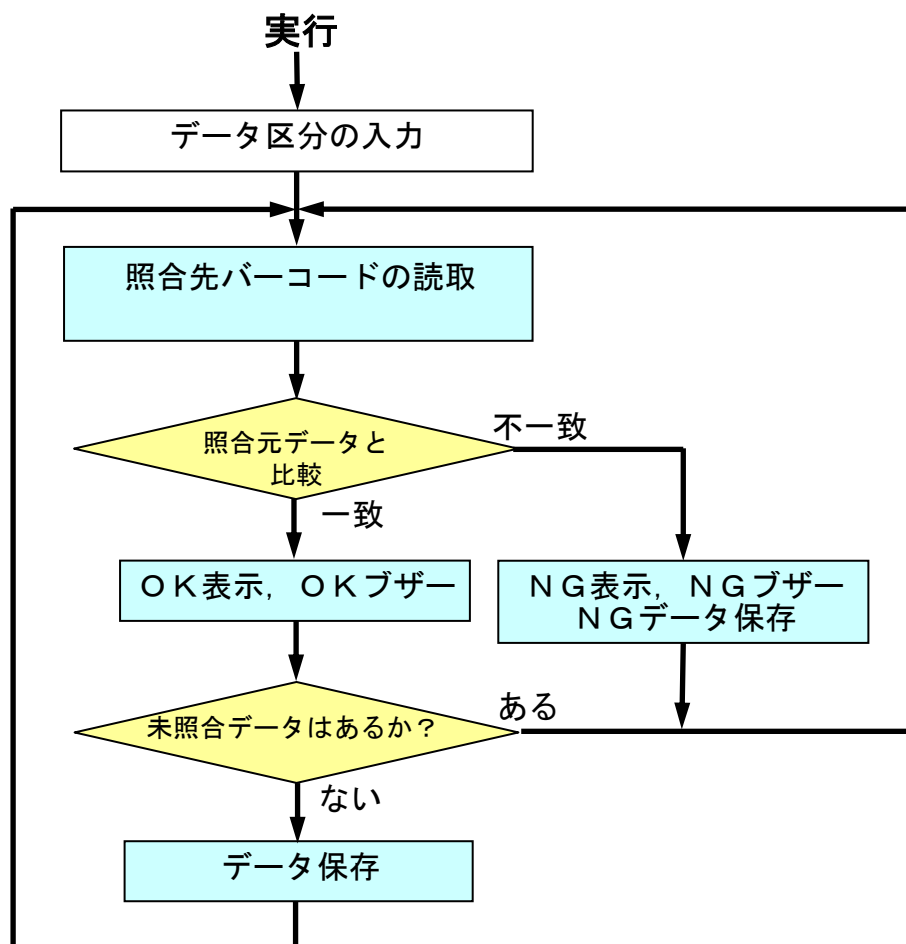


## 目次

1 機能概要 .....	1
2 動作設定 .....	2
2-1 データ区分 .....	3
2-2 照合条件 .....	4
2-2-1 照合元データ .....	5
2-2-2 照合先データ入力 .....	6
2-2-3 照合結果 .....	7
2-2-4 バーコード読取設定 .....	8
2-3 データ保存 .....	13
2-4 設定更新 .....	15
3 ハンディターミナルプログラム .....	16
3-1 アドインマスター参照照合プログラムダウンロード .....	16
3-2 業務設更新 .....	18
3-3 アドインN対N照合プログラム実行 .....	19
3-4 登録順照合 .....	20
3-5 順不同照合 .....	21
3-6 入力／データ処理エラー表示 .....	22
3-7 照合データ送信 .....	23
3-8 マスターファイル受信 .....	24

## 1 機能概要

照合先バーコードを読み取り、登録済み照合元データと照合（登録順または順不同）して、一致の場合はOK、不一致の場合はNGを表示して、設定条件に従ってデータを保存します。



N 対 N 照合
1 / M
照合先
4912345678901
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字
OK

N 対 N 照合
1 / N
照合先
4901234567890
照合先の情報表示
NG

## 2 動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「NNCA1500. PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドインプログラム」を選択

業務設定(N対N照合.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ以外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

N対N照合

BHT-1500画面

N対N照合

設定する  
アドイン業務プログラムの画面表示になります。

業務名 N対N照合 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム

プログラム名 NNCA1500. PD4

アドインプログラム設定

「NNCA1500. PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

## 2-1 データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して情報を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」を設定します。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 ずり表示)，日付(YYYY/MM/DD)，日付(YY/MM/DD)，日付(MM/DD)，時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示，横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 ずり表示)のデータ入力桁数を、最大，最小で制限します。 入力範囲：1～180
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルを設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

## 2-2 照合条件

照合元データ，照合先データ入力，照合結果を設定します。

ここをクリック

N対N照合 設定(BHT-1500)

データ区分  
→ 照合条件  
→ データ保存  
→ キャンセル  
→ 更新

照合元データ

データ登録方法  
業務設定に登録

1	2060451680006
2	2060471980001
3	2060010650006

データ数 3

情報表示マスターファイル  
MASTER.TXT

照合先データ入力

項目名 照合コード

バーコード読取設定

照合順番 順不同

NG表示後の動作 最初からやり直す

照合結果

OK表示時間 30 1/10秒

NG表示時間 30 1/10秒

OKブザー設定

NGブザー設定

照合元データに関する設定をします。

照合先データ入力に関する設定をします。

照合結果の表示時間とブザー動作を設定します。

## 2-2-1 照合元データ

照合元データ

データ登録方法  
業務設定に登録 ▼

データ数

情報表示マスターファイル  
MASTER.TXT

1	2060451680006
2	2060471980001
3	2060010650006

照合元データを「業務設定に登録」に設定した場合、ここに入力します。

- 1) データ登録方法  
「業務設定に登録」または「HTにおいて登録」を選択します。

業務設定に登録	データ数で設定した照合元データを右の入力欄に登録します。
HTにおいて登録	HTプログラムの最初の起動時に登録画面を表示します。

- 2) データ数  
登録する照合元データ数を設定します。

- 3) 情報表示マスターファイル  
照合データに関連する情報を、マスターファイルから参照して表示します。

第1フィールド	第2フィールド	...
照合データ	情報表示データ	...

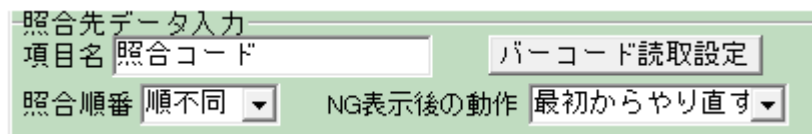
### ● ファイルのフィールド構成

〈照合データ〉〈情報表示データ〉

注) 各データを半角100桁以内で作成してください。

照合データ、情報表示データの後に23フィールドあっても動作します。

## 2-2-2 照合先データ入力



照合先データ入力

項目名 照合コード

バーコード読取設定

照合順番 順不同

NG表示後の動作 最初からやり直す

- 1) 項目名  
照合先データ入力項目の表示文字列を入力します。
- 2) バーコード読取設定  
照合先データ入力項目におけるバーコード読取設定画面を開きます。
- 3) 照合順番  
照合順番が登録順（照合元データ 1，照合元データ 2・・・の順番）または順不同を選択します。
- 4) NG表示後の動作  
「再入力」，「最初からやり直す」から選択



## 2-2-3 照合結果

照合結果	
OK表示時間 <input type="text" value="30"/> 1/10秒	NG表示時間 <input type="text" value="30"/> 1/10秒
<input type="button" value="OKブザー設定"/>	<input type="button" value="NGブザー設定"/>

OK/MGを表示する時間を、1/10秒単位で0～99の数値を設定します。  
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

### ●OK/NGブザー設定

OKブザー設定	
周波数 <input type="text" value="1"/> Hz	鳴動回数 <input type="text" value="1"/> 回
鳴動時間 <input type="text" value="5"/> 1/10秒	休止時間 <input type="text" value="1"/> 1/10秒
動作デバイス <input type="text" value="ブザー"/>	
<input type="button" value="キャンセル"/>	<input type="button" value="確定"/>

周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間  
を使用してブザー，バイブレータを動作  
させます。

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー，バイブレータ，ブザー+バイブレータから選択

## 2-2-4 バーコード読取設定

照合コード バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 1桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

入力データ選択 1桁目から 13桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

「1桁目から13桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から13桁」がデータ項目のデータになります

「99桁目から13桁」と設定した場合は、

「末尾から13桁」がデータ項目のデータになります。

指定文字削除を設定すると選択したデータから指定文字を削除します。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。

## ○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code 39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code 93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, . . . . ., <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。

## ■読取バーコードのユーザー定義

読取バーコードのユーザ定義は、ユーザ定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第1読み取りコード＞, ＜第2読み取りコード＞, . . . . . , ＜第16読み取りコード＞

[illegible]

**Abstract**

## ■ 読み取りコード (BHT-1500B)

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。



☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目] ] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13), UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字 (国フラグ) であり、0~9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

☐ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式: I [:[最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数** でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

☐ Codabar (NW7)

書式: N [:[最小桁数 [-最大桁数] ] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数** でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、



スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 39

書式: M[: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 93

書式: L[: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

#### □ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式: K[: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



☐ **スタンダード2 of 5 (STF)**

書式: H [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD] [スタート ストップ]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

☐ GS1 DataBar (RSS)

書式: R [コード: [最小桁数 [-最大桁数] [Stacked]]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional )
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上の GS1 DataBar コードののどれでも読むことができます。

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

Stacked は、Stacked タイプの読み取り指定です。S を指定すると、Stacked タイプの読み取りも可能とまります。Stacked は、コードしてい E と S の場合に有効です。

GS1 DataBar Expanded と GS1 DataBar Expanded Stacked について、FNC1 キャラクタは、GS キャラクタ (1Dh) に変換し



## 2-3 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックして設定してください。

ここをクリック →

**N対N照合 設定(BHT-1500)**

データ区分  
照合条件  
データ保存  
キャンセル  
更新

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル名 DATA.TXT 保存フィールド数 8

保存条件 照合OK/NG

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長 (バイト)
1	HtNo	4
2	照合データ 1	13
3	照合データ 2	13
4	照合データ 3	13
5	OK/NG	2
6	照合数	4
7	日付 (YYYY/MM/DD)	10
8	時刻 (HH:MM;SS)	8

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字>、<拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 16 フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK, 照合NG, 照合OK/NG から選択します。 照合OK: 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG: 照合NGになった場合にデータを保存 (エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG: 照合OKと照合NGの場合にデータを保存

## ■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o , データ区分, 入力照合データ, O K / N G , 照合数, 日付, 時刻から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける 3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
照合 1 ～ 2 0 データ	照合先において読み取ったバーコードから取得した照合データ
O K	“OK”
N G	“NG”
O K / N G	“OK” or “NG”
照合数	日付と時刻以外が同じデータの照合数を保存します。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y / M M / D D ( 1 0 桁 ) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y M M D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y / M M / D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプで Y Y M M D D ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプで H H : M M ; S S ( 8 桁 ) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプで H H M M S S ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプで H H : M M ( 5 桁 ) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプで H H M M ( 4 桁 ) を保存します。



## 2-4 設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

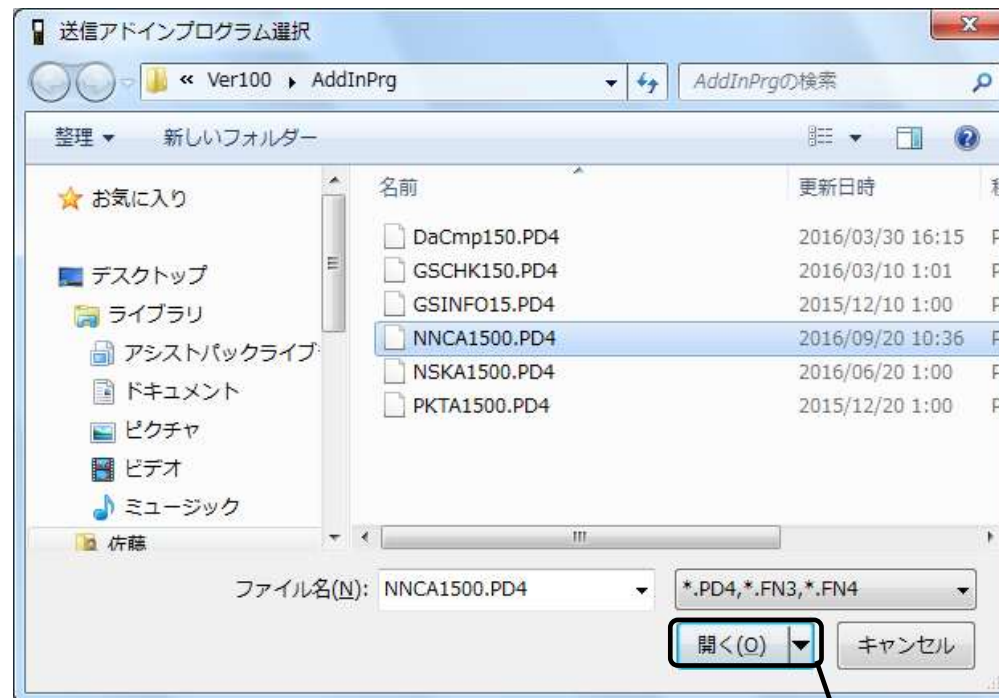
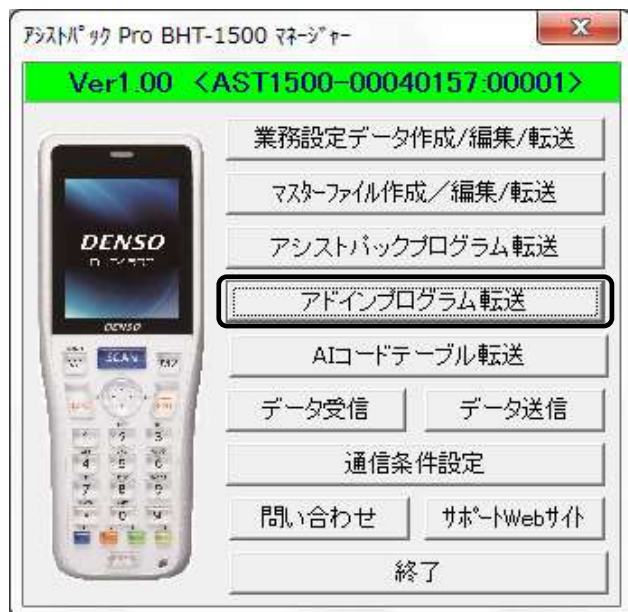
ここをクリック → **更新**

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長 (バイト)
1	HtNo	4
2	照合データ1	13
3	照合データ2	13
4	照合データ3	13
5	OK/NG	2
6	照合数	4
7	日付 (YYYY/MM/DD)	10
8	時刻 (HH:MM;SS)	8

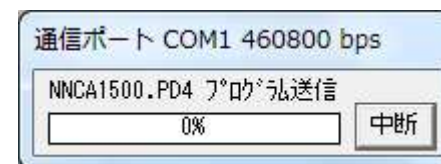
### 3 ハンディターミナルプログラム

#### 3-1 アドインマスター参照照合プログラムダウンロード

アドインマスター参照照合プログラム「NNCA1500.PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



NNCA1500.PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

**M1** 戻る **M2** 実行

**M2** 実行



**ファイル受信**  
通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

**M1** 戻る **M2** 選択

**M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**M1** 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

NNCA1500.PD4 送信中

53%

中断



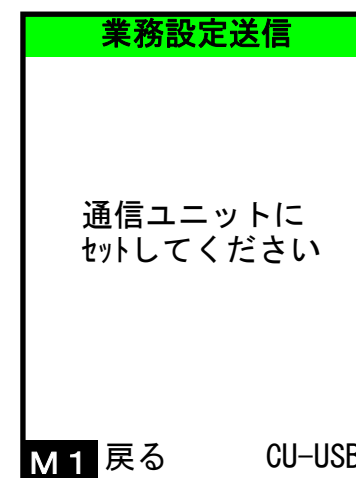
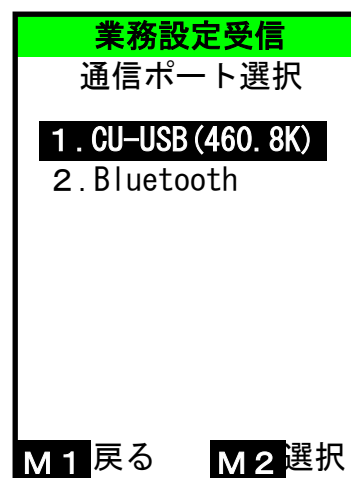
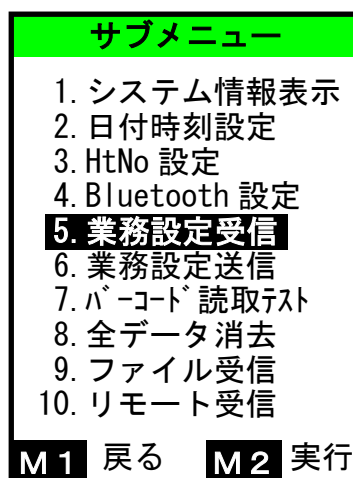
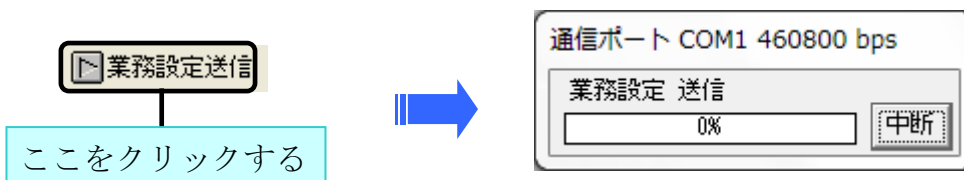
プログラム転送

正常終了

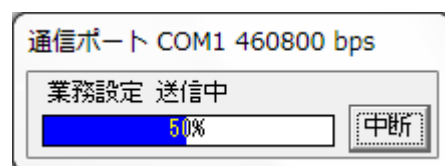
OK

### 3-2 業務設更新

アドインマスター参照照合を設定した業務設定をBHT-1300に送信して更新します。



通信ユニット  
にセット



### 3-3 アドインN対N照合プログラム実行

業務メニュー ▼

1.N対N照合

F1 VerSCAN送信 M2実行

M2実行

照合元データ登録

1 / N

.....

.....

.....

.....

M1 終了 M2 確定

照合元の順番 / 業務設定において設定した照合元データ数

照合元データを「HTにおいて登録」に設定した場合、最初の実行においてこのがめmm

▲ : 前データへ  
▼ : 次データへ  
M1 : 処理を取消して業務メニューへ戻る  
M2 : 登録データを確定して次の処理へ

N対N照合

データ区分

.....

M1 終了 M2 確定

データ区分を設定した場合のみ表示します。

M1 : 業務メニューに戻る  
M2 : データ確定



### 3-4 登録順照合

照合元データの登録順番にデータを表示し、これに従って照合します。

N 対 N 照合	
1 / N	
照合先	
4912345678901	
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字	
M 1 戻る	M 2 変更

M 1 : 前画面に戻ります。  
M 2 : 照合元データ変更

照合元データ登録画面

照合元データ登録	
1 / N	
4912345678901	
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字	
M 1 戻る	M 2 確定

照合 OK



N 対 N 照合	
1 / M	
照合先	
4912345678901	
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字	
OK	

照合 NG の場合

N 対 N 照合	
1 / N	
照合先	
4901234567890	
照合先の情報表示	
NG	

データ保存で保存条件が照合 NG, 照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

次の照合



照合 OK

N 対 N 照合	
2 / N	
照合先	
4912345678902	
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字	
M 1 取消	

照合順番 / 照合元データ登録数

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。

M1: 照合中の処理を取消して、最初の照合にもどります。



最後の照合 OK

N 対 N 照合	
N / N	
照合先	
4912345678902	
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字	
OK	



全照合を終了  
次の照合へ

データ保存で保存条件が照合 OK, 照合 OK・NG の場合にデータを保存します。



3-5 順不同照合

照合元データの登録順番に関わらず照合します。

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。

照合数 / 照合元データ登録数

N 対 N 照合

0 / N

照合先

M1 戻る M2 変更

照合 OK

N 対 N 照合

1 / M

照合先

4912345678901

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

OK

次の照合

照合 OK

N 対 N 照合

1 / N

照合先

M1 取消

M1: 照合中の処理を取消して、最初の照合にもどります。

M1 : 前画面に戻ります。  
M2 : 照合元データ変更

照合元データ変更画面

照合元データ変更

1 / N

4912345678901

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

M1 戻る M2 確定

照合 NG の場合

N 対 N 照合

0 / N

照合先

4901234567890

照合先の情報表示

NG

データ保存で保存条件が照合 NG、照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

最後の照合 OK

N 対 N 照合

N / N

照合先

4912345678902

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

OK

データ保存で保存条件が照合 OK、照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

全照合を終了  
次の照合へ



### 3-6 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードに CODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコード データエラー	バーコード データエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
照合元データ未登録	照合元データ未登録	照合元データが登録されていない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。





### 3-7 照合データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して **SCAN** キーを押します。

業務メニュー ▼

▶ 1. N 対 N 照合

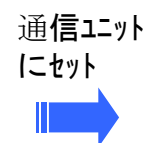
F1 Ver SCAN 送信 M2 実行



N 対 N 照合>送信

通信ユニットに  
セットしてください

M 1 戻る CU-USB



N 対 N 照合>送信

送信中  
00001

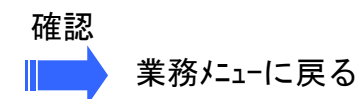
M 1 中断 CU-USB



N 対 N 照合>送信

送信終了

M 2 確認



未送信の保存データがあると  
業務メニューに ▶ を表示します。

### 3-8 マスターファイル受信

業務メニューにおいて **S F+0** を押すとファイル受信状態になります。

